

ひとが生き生きと暮らすための情報誌

びよんど

Beyond gender

2015.3 VOL.37



あなた



輝いて
いますか



特集

ワタシスタイル de 起業 ~輝く女性たち~ 2・3

ヒューマンライフシンポジウム 2014.....4・5
男女平等参画推進月間写真コンテスト
・男女平等参画社会づくり功労賞.....6

講座あらかると.....7
さんかくデータ.....8

男女共同参画都市宣言

美しい自然に恵まれ豊かな歴史を育んできた、わたしたちのまち水戸
わたしたちは、水戸のまちをさらに輝きあふれる明日へとつなぐため、「平等・創造・平和」を基本理念とし、男女がともにわがまちを、ともにつくる社会の実現に向け、水戸市を「男女共同参画都市」とすることを宣言します。

- 1 わたしたちは、ともに一人ひとりが尊重しあい、平等のもとに生き生きと暮らせるまち水戸をつくります。
- 1 わたしたちは、ともに自らの意思で社会のあらゆる分野に参画し、次の世代へとつなぐ豊かでゆとりのあるまち水戸をつくります。
- 1 わたしたちは、ともに地球環境を守り、世界へ向けて、友情と平和の輪を広げるまち水戸をつくります。

平成8年4月1日

水戸市

※誌名「びよんど」は1997年、公募により命名されました。 Beyond gender(性差を超えて)の思いが込められています。ジェンダーとは、社会的性別のことです。

特集

ワタシ・スタイル^で起業

～輝く女性たち～

自分にあった働き方を探すにあたって、就職だけではなく、「起業する」という選択肢を考えたことはありませんか？ また「起業って難しくないの？」と不安に思う方も少なくないはず。そこで、水戸で起業し、活躍する女性2人、(株)ワインデマミの植田真未さん、テーブルクリエイトミロトムの堀江千秋さんに御自身の体験を語っていただき、参加した方に自分の働き方や、これから働くためのヒントを見つけていただくための講座を開催しました。



植田 真未さん▶



◀堀江 千秋さん

講座編

植田真未さん (株式会社ワインデマミ代表取締役)

水戸市内の**酒屋の娘**として誕生。成城大学在学中、酒メーカー主催の旅行でカリフォルニアへ行き、ワインの本質に触れる。帰国後、大学へ通いながらソムリエスクールでワインの勉強をし、「現代日本ワインの父」と呼ばれる浅井昭吾氏や、フランス料理のシェフ石鍋裕氏との出会いを経て、水戸に戻り1997年実家の酒店に入社。その後**店じまいを経験**する。2012年2月、ワイン専門の店を開くことを決意し、同年5月に「**ワインデマミ**」をオープンさせる。自分でも不思議なくらい、オープン準備が**追い風**に乗って進んでいったが、それは、実家の酒店時代にまじめに懸命に仕事をしてきたことを見てくれていた人が心の支えになってくれたからと語る。自分の経験から、これから起業する人へのアドバイスとして、誰が見てくれるかわからないので**誠実に対応**すること、人はどこかでつながっているので一生懸命生きていれば、誰かが背中を押してくれたりもする。ただ起業をすることは**その道のプロ**になるということ。だからその内容については、**常に勉強**し、自分で調べればわかることは聞かない。調べてもわからないことを相談できる相手を見つけ、知ったかぶりをしないで**素直に相談**すること。また、自分が社長になるということは、自分だけでなく社員の家族も守るということなので、その責任がのしかかる。起業をすることは、そんなに甘くはないので、人に迷惑をかけるかもとわかっているならばやらないほうがいいとも語った。

堀江千秋さん (テーブルクリエイトミロトム)

大洗町出身。常に家に人が集まる環境の中で育ったため食への関心が人一倍高く子供の頃の遊びはお菓子作りと料理。長い間の**自分探し**の中、都内勤務時代に「東京ドームテーブルウェアフェスティバル」で、**テーブルコーディネーター**の仕事に出会う。茨城に戻った後、**ディプロマ**を取得するため、会社勤めの傍ら大阪通いを3年ほど続け、資格を取得。NHK文化センター水戸教室開講と共に月2回の講座を担当し暫くは会社勤めとの**2足のわらじ**を履くことになる。資格を望む受講生が多いことを知り、この仕事で食べていこう!!と覚悟を決め**会社を退職**。更に自宅教室を望む声に応え自宅教室も本格的にはじめる。サラリーマン家庭で育ったため経営などの商売のノウハウはゼロだったが、長年通ってくださる幅広い世代に支えて頂きながら茨城でテーブルコーディネーターの仕事の認知度、必要性を訴え続け今に至る。6年前、イギリス人向けにHistory of Japanese Table Settingと題したセミナーを開き、その時のご縁でイギリス在住日本人向けにテーブルコーディネート指導を行うことに。歳時記、花、季節のしつらえ、各国の食文化、お酒、マナーから食育まで食の大切さを伝える活動を主に**フリーランス**として15年になる。起業を考える人たちに、起業は自分にとってプレッシャーとの戦い。重圧に耐えられる**強い精神力**と**責任感**を持ち、経験をたくさんして誠実に対応し続けることが大切で、**人の結びつき**を大事にして欲しいと語った。

インタビュー 編

講座を終了したお2人に改めてお話を伺いました。起業のきっかけは全然違うお2人ですが、仕事に対する思いを語っていただきました。



起業することへの不安はありませんでしたか？

堀江：いまだに起業したと思っていません（笑）。気がついたらカルチャーや自宅で教室をはじめていました。ただ、会社を辞める時にはじめて、この仕事で生きていくというプロ意識が生まれました。今は、水戸を背負ってロンドンに乗り込んでいますが・・・。

植田：お金に追われる恐怖感があったので、ほぼ、やる気はなかったです。ただ今までお世話になった人たちへの恩返しができるし、応援して下さる方々のためにも、と決心しました。

女性であることで仕事上苦労したことはありますか？

堀江：10年以上前のイベントでの仕事するとき、男性中心の集まりでしたので、「なぜここにいるの」というような冷たい視線を感じたことはありますが、今は、女性の専門家も多くなったので、あまり感じなくなりました。

植田：食の世界は、男性の世界なんです。コックは男性。ギャルソンも男性。ソムリエになりたいという女性がない世界でした。ただ、いろいろ教えてくれる方々はこちらの情熱でなんでも教えてくれました。男性だから、女性だからというのではなく、知りたいから教えてほしいという情熱があれば性別は関係ないと思います。

仕事とプライベートのオン・オフはどうしていますか？

堀江：自宅が職場ですから、唯一のリフレッシュ場所はバスルームと寝室。バスルームでアロマなどを使ってリフレッシュします。更に食事はいただきたいものに妥協しません。ほとんど休みがないので、ロンドンでの仕事を終えたら必ず短期間フランスを一人旅することで充電しています。

植田：仕事を初めてまだ3年しかたっていないので、まだ走り続けている感じです。年始の会議に行く社員全員での自己評価でも、仕事以外の点数は0点。みんなの私に対する評価も0点でした。要するに仕事しかできていないんです。だからオン・オフ上手になることを目標にします。以前行っていた、朝のジョギングは少しずつ再開しています。オン・オフというよりは、やった方が性格が悪くならない（笑）。ストレス解消と同じですね。

今後やっていきたいことは何ですか？

堀江：沢山あります！！国内外で私自身が得た経験・知識・センスを披露できるような文化発信のできる場所づくり。常に今の「お洒落」にトキメキをもらえるようなショップ作りや、レストランやカフェのプロデュースを行ってみたいです。海外でも日本食ブームですから、ロンドンにも本物の日本の文化を伝えられるようなレストランが出来たらいいと思います。そして、きちんと食事をし続けたいという思いが人一倍強いので、プラスチックなどではなく、陶磁器を使って食事の提供ができる病院や老人ホームも手掛けてみたいです。

植田：ワインを文化として楽しめる空間を作りたい。具体的にいうと、代官山蔦屋のようなイメージです。代官山蔦屋は本屋だけれど本だけを売る場所じゃない。カフェで本も読める、本を持って旅行の相談もできたり、本を通して夢を実現する場所。それが、ワインであつたらすごくいいと思います。例えばワインショップ、本屋、雑貨屋、カフェが一緒であって、セミナースペースで、ワインや食文化のセミナーを開き、ワインと一緒に旅行の本や食材や歴史の本を買って帰れば、自宅でワインをより一層楽しめる。ワインをワインだけじゃない楽しみ方ができるようにサポートできる空間、文化を感じられる場所を水戸に作りたいと思うんです。私も堀江さんも言っているだけでは済まない性格なので、きっと実現させていくと思いますよ（笑）。



インタビューを終えて

仕事は「感謝」と「誠実」そして「人とのつながり」と話すお2人。起業をすることは簡単ではないといいますが、笑顔で話すお2人に仕事への熱い思いが感じられました。やりたいことがたくさんあるというお2人はこれからも自分らしく前進していくことと思います。そして「後に続こう」と起業を考える女性がたくさん増えてくることを期待したいと思います。

ヒューマンライフシンポジウム2014

時代の窓をひらいた ひとひと 女と男

平成26年9月27日（土）、「エクセルホール」において、男女平等参画推進月間事業「ヒューマンライフシンポジウム2014」が開催されました。

『恋歌』で直木賞を受賞した作家の朝井まかてさんをお迎えし、江戸時代の生活から見る女性の生き方、働き方について御自身のお考えを織り交ぜながら楽しくお話をいただきました。

基調講演
女性が仕事をするとどうなるか
直木賞作家 朝井 まかて

「女性作家であるゆえに仕事がかしにくく感じたことは一度もないです。世の中から女流作家という言葉はほとんどなくなって女性の作家たちも息をしやすくなったといいますが、特別視されなくなったのかなと思っております。」と女性が仕事をすることについて、まずは朝井さん御自身の事から話が始まりました。



直木賞作家 朝井 まかてさん

主に江戸時代を舞台に小説を書く朝井さん。作品を書くとき、読者の持つ既成概念というものを考えて補足説明を入れたりするそうです。多くの読者は江戸時代のイメージを、「武士はみな学問ができて、町民や農民は文盲」と思っていますが、実際のところ、江戸時代中期以降は学問に優れた町民も多く、農学史を書いて、農民を指導したお百姓もいたそうです。また女性が嫁いだ家に帰属するというのは、明治時代以降の事

で、明治時代以前の女性は、嫁いでも夫の姓を名乗らず、「誰それの妻です」で事足りていた。しかしそれで女性たちの個性がないがしろにされていたかというところでもなく、実家にかなり軸足を置き、跡を取った弟に指導をしているという記録が残っていたりすると説明しました。

朝井さんは、「武家の場合、子育てを担当するのは父親であり、跡継ぎがいなくなると困るので、養子も盛んでした。子供には家の来歴、考えを仕込む必要があり、自然と父系になる。母親は家政が主な担当となり、子どもに厳しく接する父親の優しい緩衝材になってきた。親の介護も一家の主が担当。財産を受継ぐこと、親の面倒はセツトなので、場合によっては契約書を交わし、面倒を見ないと訴えることもありますね。親の介護のために2年ほど休んでいる幕臣もいました。」と役割分担が今より、きっちりと分かれていた気がすると話します。庶民の場合も共働きで、女房も朝から日が暮れるまで働いたが、亭主と女房のお財布は別々で亭主が長屋の家賃と食費担当なら、子どもに係る費用と古着を買ったというのは女房もちというようにこちらも役割がきちんと分かれていたそうです。「この時代は離婚が非常に多く、夫婦別れるときのことを考えているわけです。7回8回離婚してまた結婚する女性もいて、何度でも貰い手がある甲斐性のある女性として尊敬されていた。」と続けました。

働く女性の中で、非常にスペシャル

な人は、大奥の人だと朝井さんはいいます。大奥は江戸城だけでなく、各藩の大名屋敷にもあり、貧しい旗本の娘たちは、一生結婚しないという誓いを立てて勤めに出る。今でいう官僚に当たり、大変優秀な女性官僚がたくさんいたといえます。「恋歌」の主人公登世の母も、娘を嫁がせてから家業を辞め、若いころに勤めていた藩で奥女中勤めを始めるのですが、これはフィクションではなく実話だそうです。40歳は超えていたのに、声がかかるといことは、優秀な人は再就職する口があり、優秀な人材を必要とするのは、將軍家の奥との付き合い、諸藩の大名同士の付き合いで、奥向き外交は、表の政治と同じくらい非常に重要だったそうです。「非常に優秀な女性は、老中に匹敵するぐらいの権力をもって名前を残している人も何人かいます。引退をしても多額の退職金や、御屋敷をもらい、年金も現役と同じだったため、江戸の財政はかなりきつくなったと思われま。優秀な人には、その後もちろんと報われる老後という仕組みはやはりこれから私たちがもっと考えていかなければいけないことだと思えます。」と最後に、現代に働く女性の将来についても触れて、基調講演が終了となりました。





トーク&トーク

直木賞作家 朝井 まかて
 弘道館学芸員 小坏 のり子
 茨城放送アナウンサー 阿部 重典

基調講演に続き、同会場において朝井さんと弘道館学芸員の朝井さんが、茨城放送アナウンサー阿部さんの進行で、女性の活躍や、基調講演で話せなかった『恋歌』のことなどを題材に、なごやかな雰囲気の中でトーク&トークを行いました。

弘道館の学芸員である朝井さんは、「東日本大震災を経験し、被災と復旧を弘道館と一緒に歩んできた心境です。」と話し、朝井さんとは、『恋歌』の取材で水戸に来られた時に案内をしたということからご縁が始まり、今は仕事をする女性としてもとても尊敬しているといいます。

朝井さんは、取材の時に水戸の気質「三っぼい」について説明を受け、「理屈っぽい」「怒りっぽい」「骨っぽい」に、新しく、朝井さんが受けた水戸の印象から、「三っい」、「人なつこい」、「賢い」「情がこい」をプラスして使っていただけませんかとの提案をしました。

阿部さんの、「特に女性の皆さんがこれから活躍されること、期待を寄せるところはどこでしょうか」という質問に、「私は『恋歌』で書いたことは水戸藩に材をとっていますけれど、内乱によって散った多くの命への鎮魂

として描いたつもりで、天狗党を持ち上げるために諸生党を敵視する構図にはしていません。天狗党には天狗党の正義があったし、諸生党には諸生党の正義があった。そこで、こういう機会ですから、水戸の女性の皆さんに、女性の奥向き外交の能力を発揮していただきたい。天狗党と諸生党の家の女性たちに集まってもらって、一回お茶会をしてはどうか。お互いに一家の主を失ってとても苦労をして、また家を再興させたところは一緒なので、それを内戦内乱の絶えない世界へ水戸アピールとして世界に発信をしてほしい。」と述べました。



小坏 のり子さん

小坏さんは、「女性が家を守りながら苦労してそこからまた再興していったということでは、非常に女性共感しあえるところがたくさんあると思うので、その提案は大事だと思ふ。」と朝井さんの話に賛同し、男女平等参画について、「男性と女性がそれぞれ持っている特質、感性とか視点みたいなものをお互いに活かしていかなければ、バランスをとりつつ、よりよい社会を作っていくことが大

切で、今もそういう時代になっていると思います。どんな仕事でも、これからはますます男女が家事とか育児を協力して助け合っていくという社会になっていくのではないかと思います。現在のように女性の力が発揮できるような社会を作ってくれたそれぞれの時代の女性たちに感謝の気持ちを忘れないでいたい。また未来の人たちが私たちの時代を見たときに平成の男女平等参画のあり方というのを誇りに思っていただけだったらいいなと思います。」と御自身の考えを述べました。

阿部さんは、『恋歌』を読み始めて、3、4日でぐっと引き込まれたといいます。「何度も読み返したいと思う作品で、水戸に来て28年になりますが、水戸の歴史は、多くの皆さんがご存知の程度の事しか知らなかったのが、地元を見つめ直すきっかけになりました。」と感想を語りました。



阿部 重典さん

会場の皆さんは、三人の楽しい会話と『恋歌』の世界に引き込まれ、あっという間に時間が過ぎ盛況のうちに閉会となりました。

平成26年度

男女平等参画推進月間写真コンテスト入賞作品

水戸市では、平成20年度から男女平等参画推進月間に合わせて男女平等参画社会実現をイメージした写真コンテストを実施しています。



優秀



「パパみたく料理上手になれるかな」
古山 みのりさん

最優秀



「ご同役」
石井 英雄さん

優秀



「お父さんの育児 出発進行!」
勝山 暁文さん

佳作



「女団長率いる応援団」
大津 丈さん

佳作



「クラスマッチ「大縄跳び」呼吸を合わせて!」
松田 千紘さん

佳作



「男女筋等 一先生がんばってー」
古田 敏城さん

男女平等参画社会づくり功労賞の受賞者ご紹介

水戸市では、平成18年度から「男女平等参画社会づくり功労賞」を創設し、男女平等参画社会の実現に向けて、あらゆる分野において積極的な取組をしている個人や団体、事業所を表彰しています。



●個人の部

酒井 はるみさん

平成5年の水戸市女性行動計画策定に携わって以降、水戸市男女共同参画都市宣言、水戸市男女平等参画基本条例制定、水戸市男女平等参画推進基本計画策定など、水戸市の男女平等参画の推進に多大な貢献をされています。現在、茨城大学名誉教授、水戸の女性史を作る会代表として活躍されています。

●団体の部

水戸商工会議所女性会

昭和43年、女性として経済認識を広めて企画経営に対する実力を高め、地域社会に貢献することを目的に設立され、女性経営者の強い味方としての機能を果たしています。また、会員が、行政、公的機関の審議会・委員会の委員の委嘱を受け、政策・方針決定過程に女性の意見を反映させています。

●事業所の部

株式会社ヴィオーラ

昭和37年の創業以来、おしぼりのレンタル・クリーニングを行い、平成24年に水戸市認定優良工場認定を受けています。女性の雇用が多く、女性管理職を中心とした企画部門では女性の視点を重視した商品の開発や、販売ルートの拡充を進めており、女性の力を発揮し働きやすい環境づくりに努めている企業です。



講座あらかると

皆さんのご参加
お待ちしております



今年度は、事務所のあるみと文化交流プラザが耐震補強工事のため、他の場所を使用しての講座開催となりました。それでも、多くの方々に参加をいただき充実した講座を開催することができました。その中の一部を御紹介します。

女性のための写真テクニック講座（基本編）

女性を対象とした、基本の写真テクニックを学ぶ講座を10月25日（土）写真家の齊藤佳代子さんをお迎えして開催しました。撮影のときの構図の取り方や、ピンボケ、ブレを防ぐ方法についての講義の後、室内で「物」撮影するときの光（ライティング）の使い方や、屋外へ出て、太陽光を使い人物を被写体としたポートレートの撮影を実際に体験しました。参加者からは、「構図の取り方で新しい発見をした」「セッティングの仕方での物の写り方の違いがよくわかった」など写真の奥深さを知り、続編を望む声がたくさん聞かれました。講座が終了しても直接先生に御指導を仰ぐ熱心な参加者もいて、写真への関心の高さを感じました。



光を上手に使うと写真は変わる！

子どもとパパの楽しいクッキング講座

11月1日（土）、はとりクッキングスクールの羽鳥達也先生、みよ子先生をお迎えして、日頃仕事で忙しくお料理ができないパパと、そんなパパと一緒に料理をしたいという小学生の親子が集まって、ピザやナポリタン・野菜たっぷりのスープ・フレッシュジュースを作りました。包丁に慣れていないお父さんの代わりに手際よく野菜を切るお子さんや、役割分担を上手にして作業する親子など、どの親子も楽しそうに会話をしながら2時間で料理を作りあげました。出来あがった料理をお持ち帰り容器に詰めて、「家で待っているお母さんに持ってかえるんだ」とうれしそうに話す男の子の笑顔がとても印象的でした。



パパの料理で家族が笑顔に！

仕事と自分の関係が楽になる！！ 「ストレス」を「力」に変える仕事力講座

働く女性を対象とした「キャリアアップ講座」を、ブラマンテ株式会社代表取締役の田島弓子さんを講師にお迎えして、11月22日（土）に開催しました。日々働く中で、仕事へのストレスを抱え今の自分の環境を変えたい、変えようと思って参加して下さった参加者が多く、田島先生御自身のキャリア形成の過程のお話や、「ストレスは克服するのではなく扱う」という説明に「心がとても元気になりました」「明日からまた頑張れそうです」という感想を書いてくださった参加者もいて、講座の内容が充実して大変満足していただいた様子がうかがえました。



ストレスは克服よりも上手に扱うこと！

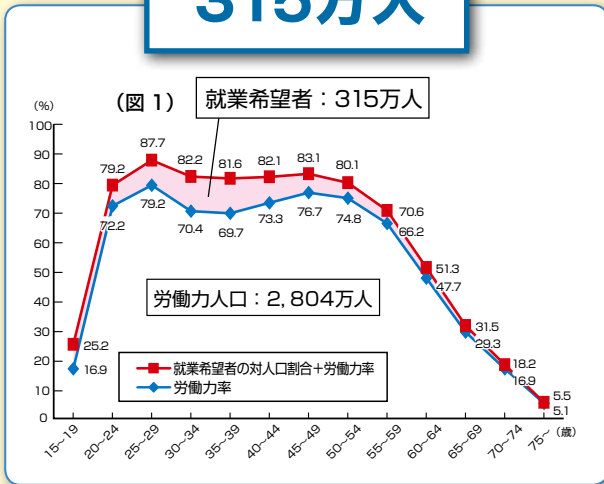
落語で考える男女平等参画 「ぼじていぶ・あくしよん」って何？

男女平等参画をわかりやすく学んでもらおうと、1月24日（土）に「落語で考える男女平等参画講座」を千金亭値千金さんを講師に迎え開催しました。「女性の性と生殖に関する健康と権利」と訳される『リプロダクティブ・ヘルス/ライツ』が創作落語のテーマ。参加者は、お世継ぎ問題について、お殿様と家来のユーモラスなかけ合いを聞きながら、『しきたり』『文化』『伝統』というものが女性の『産む』という自己決定権の阻害になっているのではないかという事を学びました。その後グループで話し合いをし、男女平等参画を実現する社会について意見を交換しました。



「ポジティブアクション」は企業における女性活躍推進の取組です！

315万人

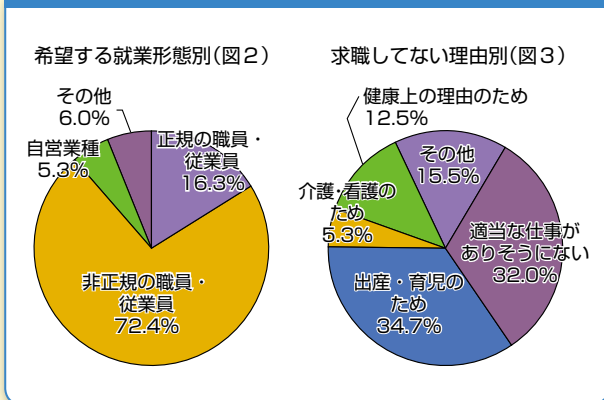


(平成26年版 男女共同参画白書より)

左の315万人という数は何を表す人数でしょうか？
 答えは、平成25年における女性の非労働力人口2931万人の中で、就業を希望している女性の人数です(図1)。特に30代の就職希望者はほかの世代より多いことがわかります。

また、315万人の就業希望者の、就業形態の希望内訳は、非正規の職員や従業員を希望する者が72.4%と7割を超え、正規の職員や従業員を希望する者の約4.5倍となっており、非正規での就業形態を希望している女性が多いという現実があります(図2)。現在求職をしていない理由を見てみると、「出産・育児のため」が34.7%で最も多く、「介護・看護のため」が5.3%「適当な仕事がありそうにない」が32.0%となっています(図3)。これらの人の就業が実現すれば、労働力率は上昇するといえます。皆さんは315万人という人数を多いと思いますか？少ないと思いますか？

就業希望者(315万人)の内訳



(平成26年版 男女共同参画白書より一部抜粋)

労働力人口=満15歳以上の人口うち労働の意思と能力を有する人の数。就業者と完全失業者の合計数

非労働力人口=満15歳以上の人口から、労働人口を引いた人口

労働力率=労働力人口÷15歳以上人口×100

(備考) 1 総務省「労働力調査(基本集計, 詳細集計)」(平成25年)より作成
 2 15歳以上人口に占める就業希望者の割合
 3 在学中を含む
 4 「希望する就業形態不詳」及び「非体職理由不詳」を除く
 5 「自営業主」には「内職者」を含む

お知らせ

男女平等参画センターは、東日本大震災の影響で施設を閉館し4年が経過しました。その間、利用者の皆様には大変ご不便をおかけいたしました。いよいよ平成27年4月1日より、みと文化交流プラザ(五軒町)内の4・5・6階に、改めて開館いたします。詳細は次号でお知らせしますが、新しい男女平等参画センターを今後ともよろしくお願ひします。

男女平等参画社会推進のために・・・

■男女平等参画推進委員会

男女平等参画社会の推進のために設置された、市民・事業者・学識経験者から構成される委員会です。総合的な施策と重要事項を調査審議します。

■男女平等参画苦情処理委員会

男女平等参画に関する苦情の申し出を、公平・中立な立場に立って調査し、解決を図っていきます。詳細は、水戸市男女平等参画課までお問い合わせください。

編集後記

今回の特集は「ワタシスタイルde起業」。起業こそしてはいいませんが、私も働く女性の1人。人に恵まれているというお2人と同様、私も多くの人に支えられ、日々仕事に励んでいます。人が財産といいますが、まさにその通りだと思います。これからの目標は1回も2回も大きくなって(あ!!体ではないですよ。心です)人を支えられるようになること。がんばるぞ〜(Y)

発行日/平成27年3月

編集・発行/水戸市 市長公室 男女平等参画課
 〒310-0063 水戸市五軒町1丁目2番5号
 茨城いすゞビル4F

TEL 029-226-3161 FAX 029-226-3162

ホームページ/ <http://www.city.mito.lg.jp>

印刷/関東印刷株式会社

